

『まいごばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。
スパークスの日本株の情報発信レポート

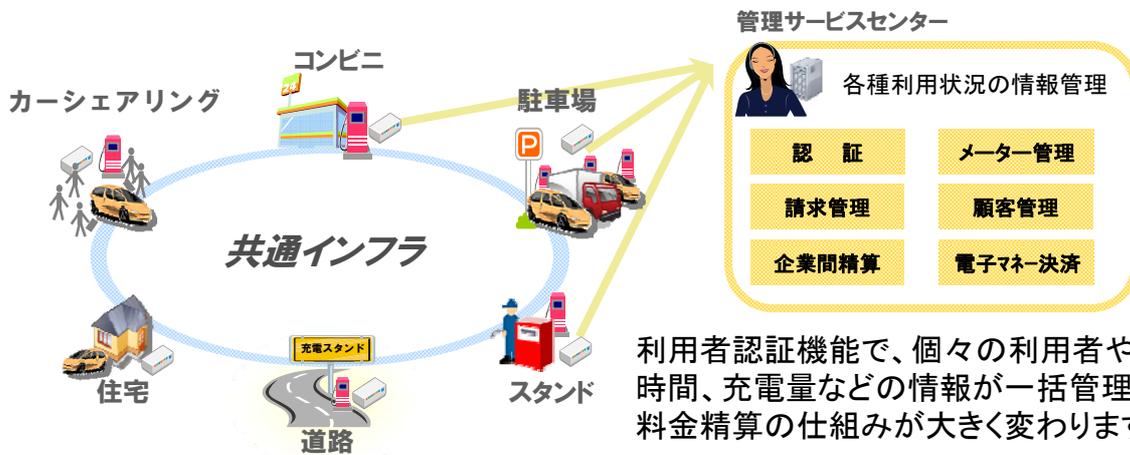
第43号(2010年8月6日)



「生活が変化するスマートグリッド」

前回のレポートで、電力の流れるもの全てがスマートグリッド(双方向電線網)につながると、画期的な省エネ化が実現できるとお伝えしました。このスマートグリッドの技術は、過去100年以上続く自動車の主力である『ガソリン車』にとって大きな転機となります。

日本を代表する大手自動車メーカーが環境負担の少ない電気自動車の普及に向けて本格的に始動しています。自宅で充電できる電気自動車が普及すると、街中で「充電スタンド」が整備され、コンビニ、駐車場、道路など私たちの身近な場所で充電が出来るようになります。基本的には自宅で充電するわけですが、遠出の際や緊急時には外の充電スタンドを利用することになります。ガソリンスタンドがほとんど見当たらなくなるという時代が近い将来訪れるかもしれません。また、電気自動車はガソリン車の10分の1以下のエネルギーコストとなることで、そうなると地球にも消費者のお財布にも優しいですね。



しかしながら、電気自動車は値段の高さや1回の充電で走れる距離が限られており、ガソリン車に比べるとまだ実用性の面で改良の余地があります。現在、家電メーカーや電気メーカー等の異業種メーカーによる自動車業界への新規参入など業界の垣根を越えた開発が進んでいます。大出力のバッテリーをより低コストで開発することが普及のカギとなることでしょう。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『まいこばなし』

スパークスの日本株の情報発信レポート

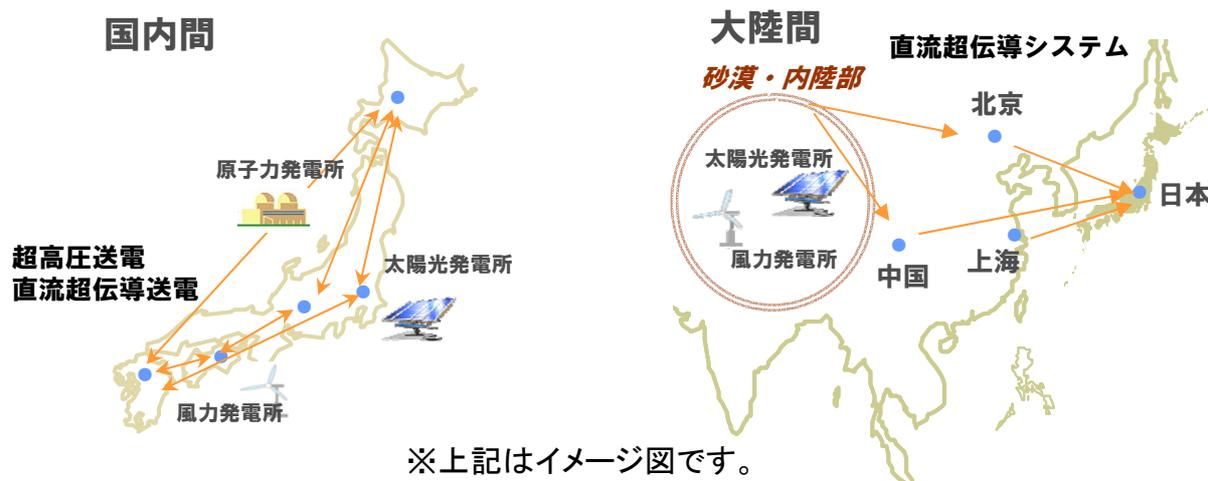


スマートグリッドの技術を使った『需要にあった供給』と『無駄な消費を抑制』する電力システムは、電力を必要としている地域や大陸間を越えた供給が可能になります。

日本は停電に悩まされることが比較的少ない国ですが、米国では停電が深刻な問題のため送配電インフラの整備・性能の向上は急務であると言われています。

現在の送電システムの主流である交流送電は、ケーブルで1,000km送電すると約3分の1の電力を損失してしまうのに対し、スマートグリッド技術を利用した直流超伝導送電システムでは損失がほぼゼロになり長距離送電が可能となります。原発を消費地から離れた場所に立地でき、災害リスクを減らせるほか、発電力の小さい太陽光や風力、水力などの自然エネルギー発電の促進にもつながります。

通信事業者がスマートグリッド市場への参入に成功し、電力消費の平準化や設備投資の削減が実現できれば、このモデルは全世界に大きな影響を与えることになります。



2回にわたりスマートグリッド技術が私たちの生活にどのような影響を与え、大きく変化するかをお伝えしました。石油枯渇が叫ばれ、世界的にCO2削減を目指す流れは、スマートグリッド技術の実用化を確実に加速させると考えられます。

※当コラムは執筆者の見解が含まれている場合があります、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の見解と異なることがあります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。